



2018年度 上期決算説明会

2018.11.12

明治ホールディングス株式会社

1. 2018年度 上期総括
2. 2018年度 下期・通期見通し
3. セグメント別概況と今後の経営方針

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。



1. 2018年度 上期総括

2018年度 上期連結決算のハイライト

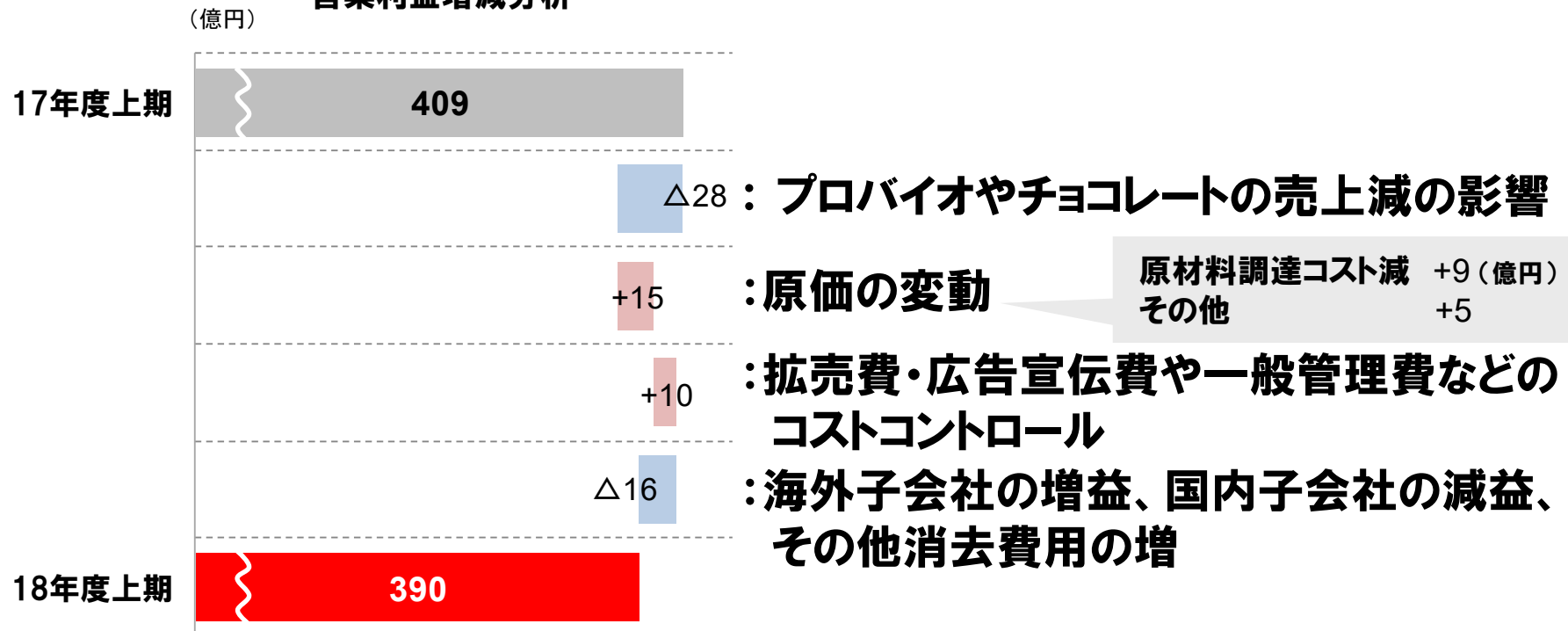


(億円)	17年度 上期実績	18年度 上期計画 (8/7時点)	18年度 上期実績	前年同期比	計画比
売上高	6,114	6,070	6,119	+0.1% +4	+0.8% +49
営業利益	451	410	438	Δ2.9% Δ12	+6.9% +28
営業利益率	7.4%	6.8%	7.2%	Δ0.2pt	+0.4pt
親会社株主に帰属する 四半期純利益	314	320	383	+21.9% +68	+19.7% +63
EPS	216.33円	220.69円	264.23円	+47.90	+43.54
1株当たり配当金	57.5円	65.0円	65.0円	+7.5	—
設備投資額	348	395	343	Δ1.4% Δ5	Δ13.3% Δ52

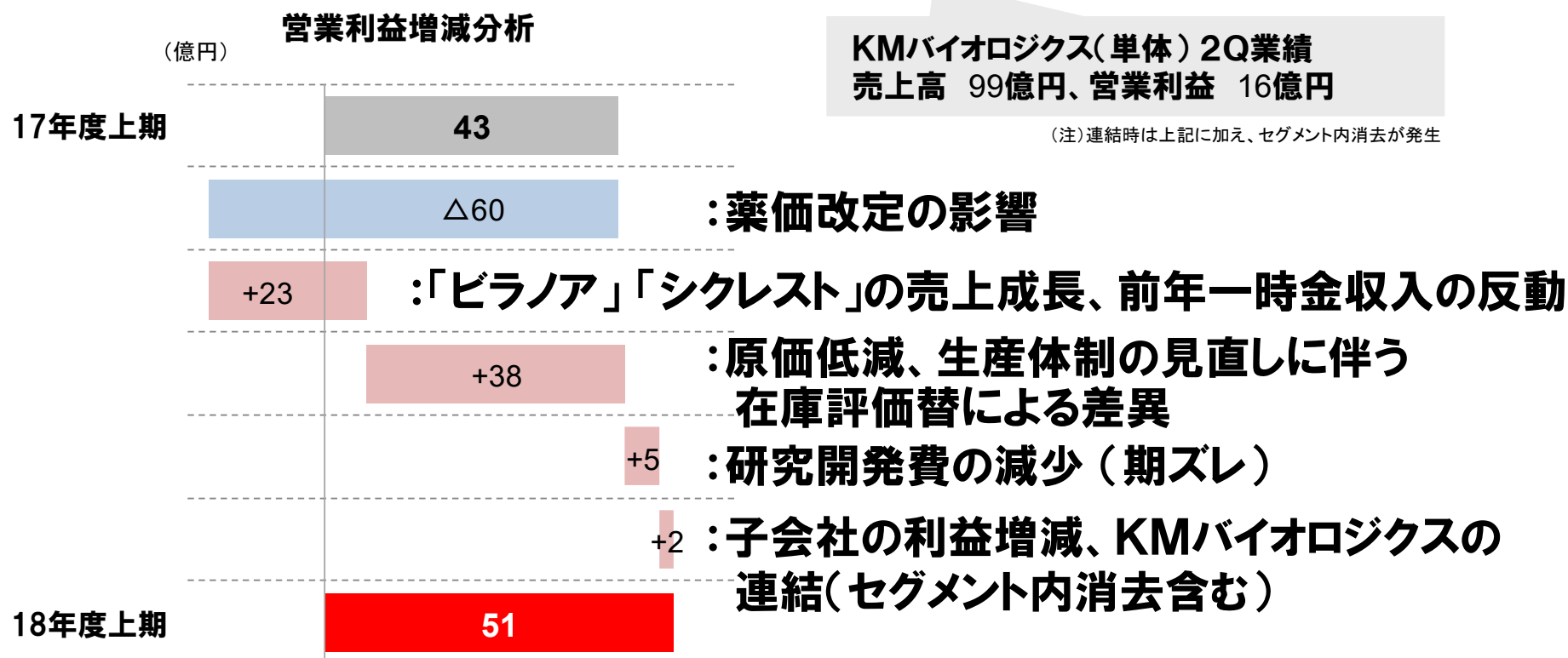
- 売上高は、食品の減収を好調な医薬品とKMバイオロジクスの連結効果(2Q)でカバーしたが、営業利益はやや前年を下回る
- 災害による損失が発生した一方、固定資産売却益やKMバイオロジクスに関わる負ののれん発生益を計上し、純利益は大幅増となる

(億円)	17年度 上期実績	18年度 上期計画 (8/7時点)	18年度 上期実績	前年同期比	計画比
売上高	5,342	5,299	5,248	△1.8% △94	△1.0% △50
営業利益	409	389	390	△4.6% △19	+0.3% +1

営業利益増減分析



(億円)	17年度 上期実績	18年度 上期計画 (8/7時点)	18年度 上期実績	前年同期比	計画比
売上高	777	779	876	+12.6% +98	+12.4% +96
営業利益	43	26	51	+17.5% +7	+96.2% +25





2. 2018年度 下期・通期見通し

2018年度 下期連結見通し



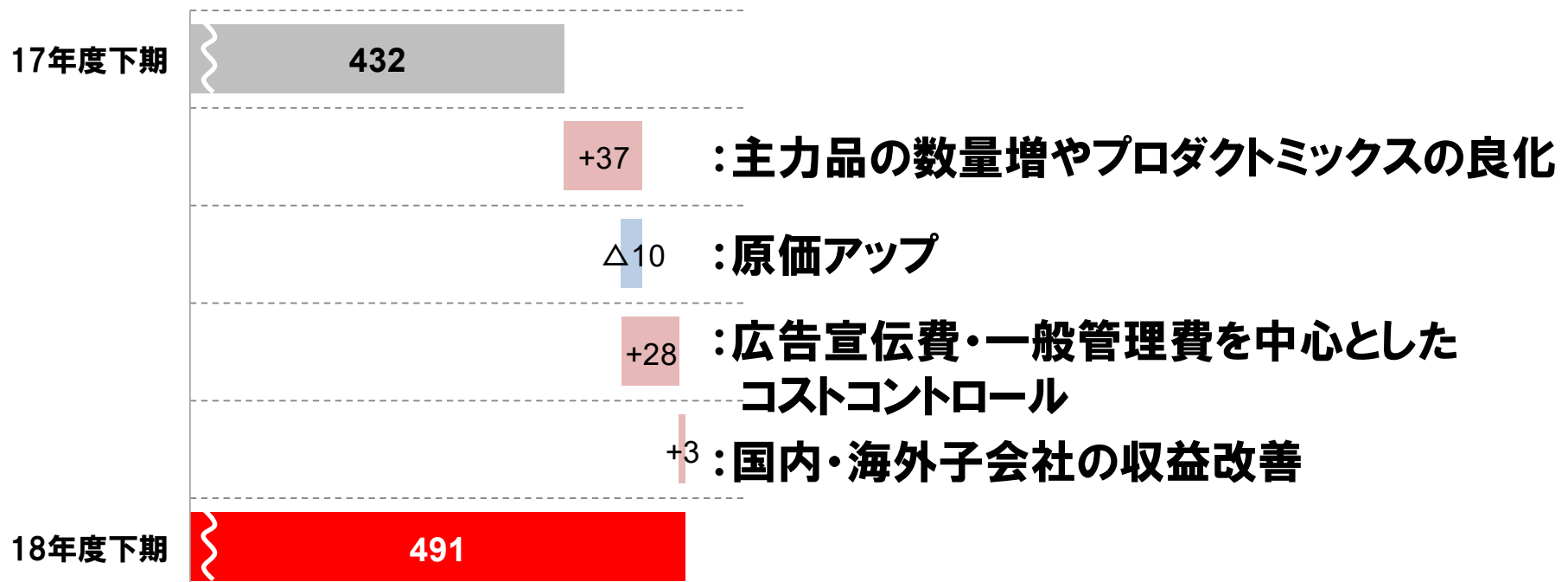
(億円)	17年度 下期実績	18年度 下期計画 (8/7時点)	18年度 下期計画 (11/7時点)	前年同期比
売上高	6,293	6,530	6,535	+3.8% +241
営業利益	495	585	571	+15.4% +76
営業利益率	7.8%	9.0%	8.8%	+1.0pt
親会社株主に帰属する 四半期純利益	298	310	326	+9.5% +28

- 上期の動向とKMバイオリジクスの連結効果を踏まえ、売上高・利益ともに修正
- 食品は、主力品の動向を踏まえて売上・利益ともに減額修正したが、利益は5月発表の当初目標水準（491億円）を確保
- 医薬品は、連結効果を加味して売上・利益ともに増額修正

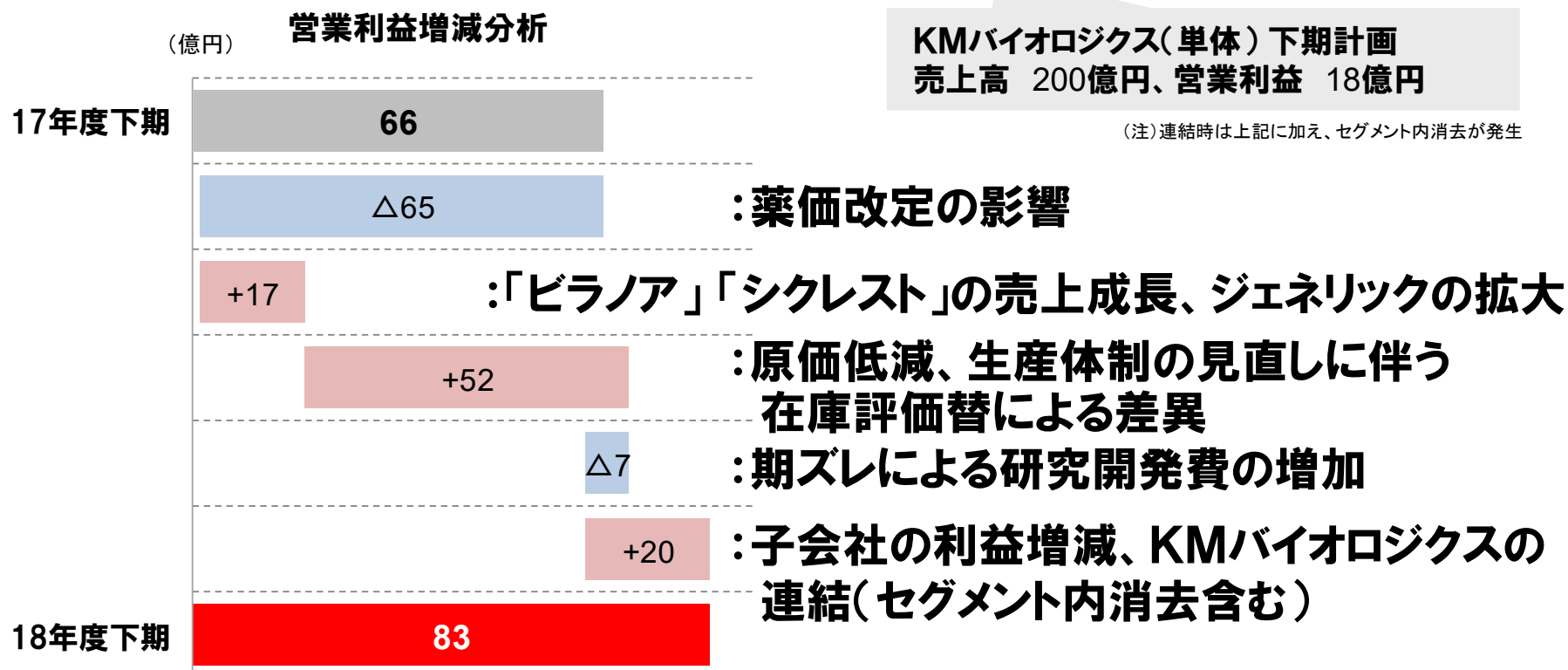
(億円)	17年度 下期実績	18年度 下期計画 (8/7時点)	18年度 下期計画 (11/7時点)	前年同期比
売上高	5,393	5,600	5,422	+0.5% +29
営業利益	432	511	491	+13.5% +58

営業利益増減分析

(億円)



(億円)	17年度 下期実績	18年度 下期計画 (8/7時点)	18年度 下期計画 (11/7時点)	前年同期比
売上高	906	937	1,123	+23.9% +217
営業利益	66	73	83	+25.7% +17



2018年度 通期連結見通し



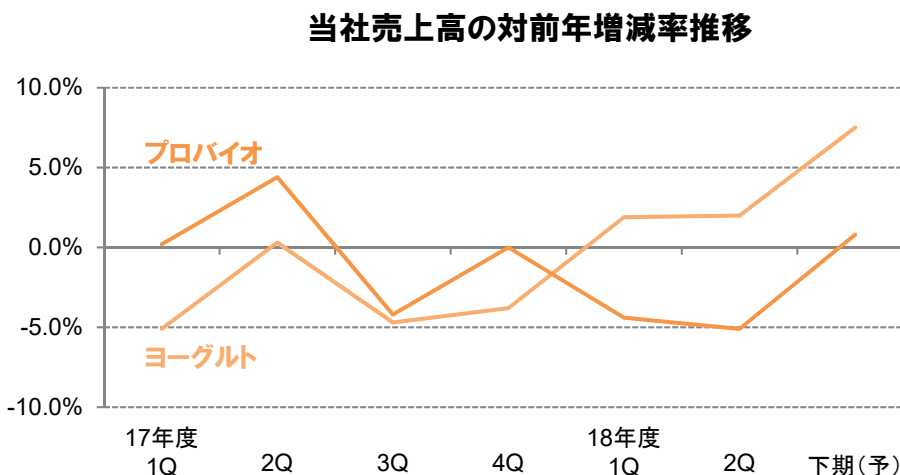
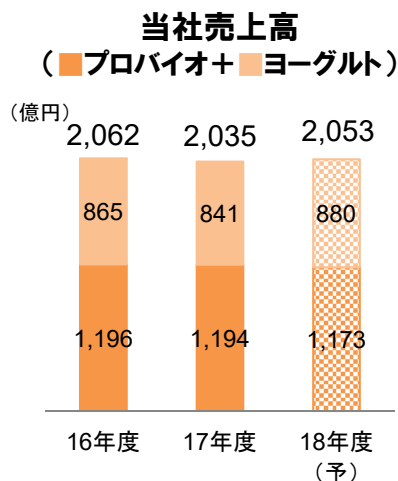
(億円)	17年度 通期実績	18年度 通期計画 (8/7時点)	18年度 通期計画 (11/7時点)	前年同期比
売上高	12,408	12,600	12,655	+2.0% +246
営業利益	946	995	1,010	+6.7% +63
営業利益率	7.6%	7.9%	8.0%	+0.4pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	612	630	710	+15.9% +97
EPS	422.15円	434.48円	489.61円	+67.46
1株当たり配当金	130円	130円	130円	—
配当性向	30.8%	30.0%	26.6%	Δ4.2pt
ROE	13.1%	12.4%	13.8%	+0.7pt
設備投資額	717	899	793	+10.6% +75
営業CF	1,087	969	1,134	+46
フリーCF	443	Δ73	37	Δ406

負ののれん発生益
65億円

- 負ののれん発生益により当期純利益は大幅増の見通し

3. セグメント別概況と今後の経営方針

ヨーグルトは持続的な成長、プロバイオは集中的なマーケティングで成長回帰へ



【市場動向】

- プレーンヨーグルトは回復したが、全体では上期はやや前年割れで推移
- 乳酸菌飲料市場も含め各社から新商品が発売されており、競争は激化の傾向

● プロバイオ

- 上期は前年割れで推移したが、新たなプロモーションで一定の効果も表れた
- 下期は積極的なコミュニケーション施策で成長軌道への回帰を目指す

R-1

需要期に向けた販促と売場づくりの強化

LG21

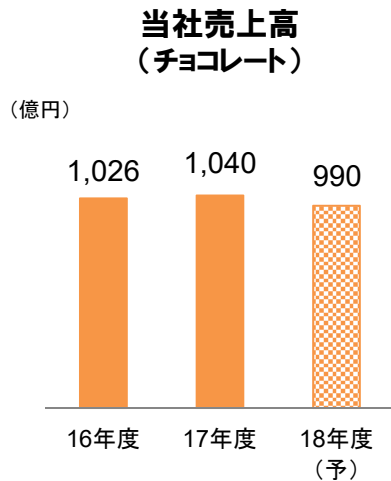
「胃で働く乳酸菌」のさらなる浸透

● ヨーグルト

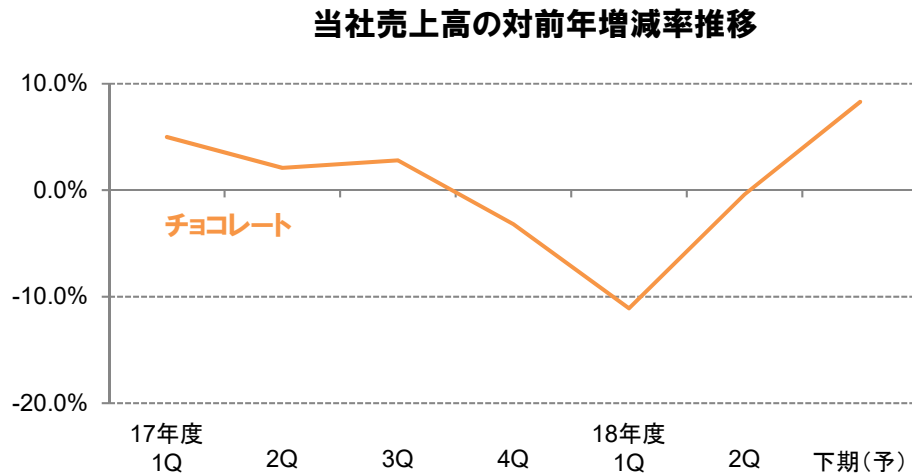
- 4月の容量・価格改定を機にプレーンタイプが復調し、上期の売上成長をけん引
- 下期は商品ラインアップを強化し、引き続き活性化を図る



(左: 明治ブルガリアヨーグルトLB81 カルシウムと鉄分)
(右: 明治ブルガリアのむヨーグルト プレーンコク仕立て)



(注)上記18年度は取引制度変更の影響を含む



(注)上記18年度の数值は取引制度変更の影響を除いた実質ベース

【市場動向】

- 天候要因に左右される中、1Qは前年割れとなったが、2Qから回復基調
- 中高年齢層のニーズを捉えた健康志向チョコレートは力強い成長続く

● 上期は1Qを底にして売上モメンタムは回復基調

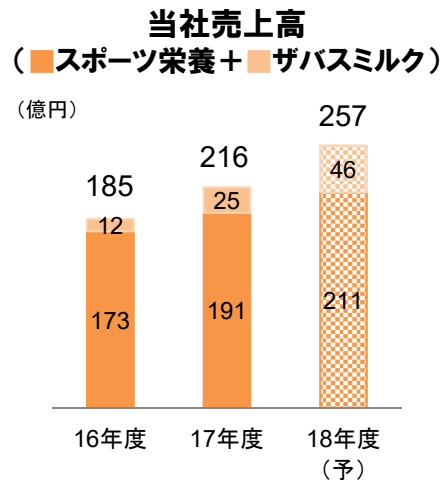
- 「チョコレート効果」は引き続き好調に推移し、全体をけん引
- 2Qになり、新商品投入やキャンペーンが奏功したナッツチョコレートやチョコスナックが計画通りに推移し、売上を下支え

● 最需要期となる下期は、好調なブランドのさらなる拡大と「ザ・チョコレート」の回復に注力

- 新商品・新フレーバーの効果的な投入
- 付加価値を伝えるマーケティング活動の強化



(左: 明治 ザ・チョコレート 清らかに香るジャスミンティー)
(右: 明治ザ・チョコレート 3つのカカオ香味セット【限定】)



(注)「ザバスミルク」は発酵デリーの売上に含まれる

【市場動向】

- スポーツ人口の増加やさまざまなスポーツイベントの開催、能動的に体を動かすライフスタイルの浸透などにより、市場全体の成長は続く
- 特にスポーツプロテインでは、ネット通販を中心に新規参入企業や海外製品が急増。販売経路としてのネット通販の存在感が高まる
- 小売企業がPBのスポーツ栄養商品を強化するなど、売場の拡大がみられる



(左: ザバス ミルクプロテイン)
(右: ザバス プロテインゼリー)

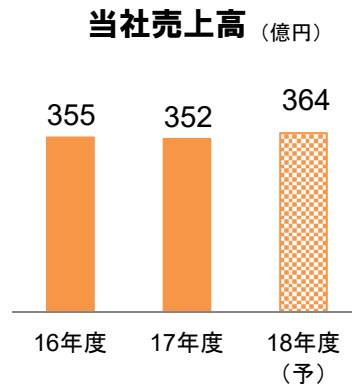
● 「ザバス」「ヴァーム」とともに上期は増収

- 「ザバス」は主力のホエイプロテインが大きく伸長し、ゼリータイプなどの新商品も好調に推移したが、計画には届かず
- 台頭するネット通販への対応に課題を残す

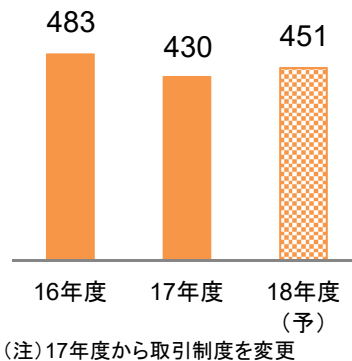
● 下期はチャネル特性に合わせて販促を強化し、成長加速を目指す

- 事業横断的な取り組みや小売との連携を深め、売場を拡大
- デジタルマーケティングを強化。ネットにおいても価格ではなく、当社ならではの付加価値を訴求し、差別化を図る

チーズ

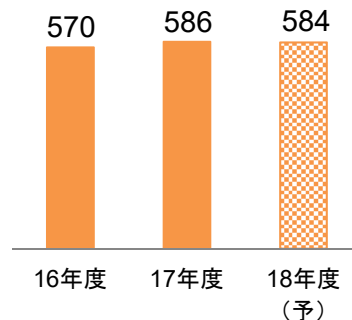


- 6・8月に価格・容量改定したが、力強い需要を背景に上期は増収。カマンベールチーズの新製造棟も稼働
- 下期も、生産能力が拡大したカマンベールチーズを中心に成長ペースを維持

デザート
フロースン

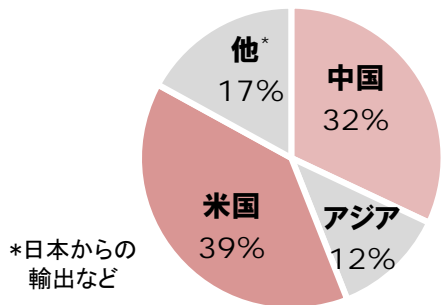
- 前年下期に発売した「エッセルSweet's」のプラス効果に加え、メディア露出や猛暑の追い風もあり、上期は増収
- 下期も「エッセル」ブランドを軸に、フレーバーも入れ替えながら、着実な成長へ

業務用商品

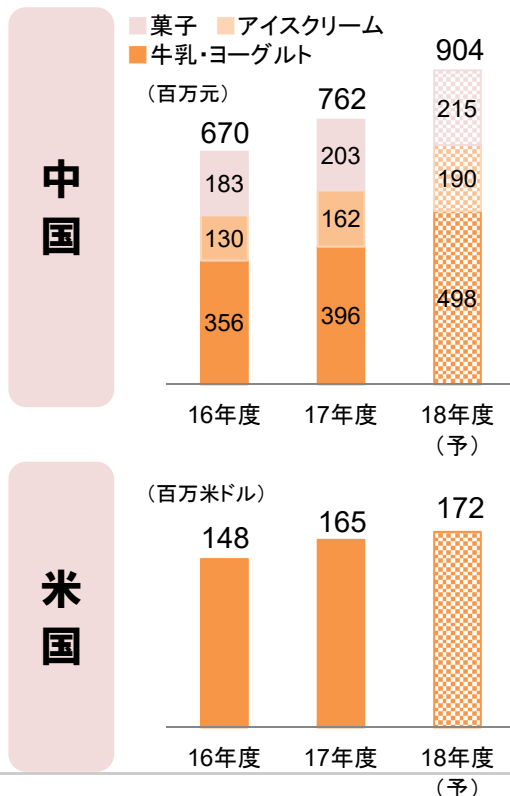


- 上期は商品ラインアップの見直しを進めたが、クリームなどの拡大でカバー
- 下期は生乳・乳製品需給を鑑みつつ、安定した成長を目指す

地域別売上構成比
(18年度計画円貨ベース)



当社売上高



● 菓子

- ・主力の「メルティーキッツ」やナッツチョコを中心に、安定成長が続く

● アイスクリーム

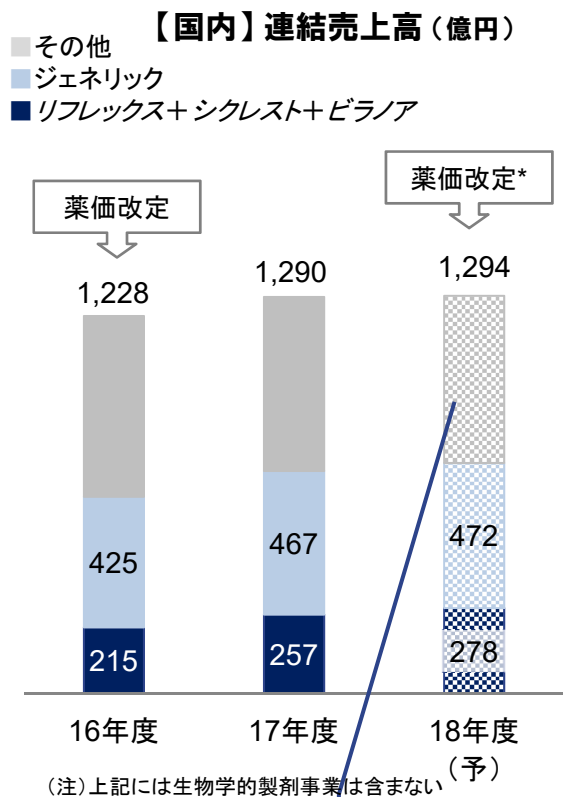
- ・新商品の定着と販売エリア拡大で、前年・計画ともに上回る成長

● 牛乳・ヨーグルト

- ・牛乳は好調。生産能力増強により下期は成長加速
- ・ヨーグルトは競争激化で上期は苦戦。商品リニューアルや販促見直しで活性化を図る

● 菓子

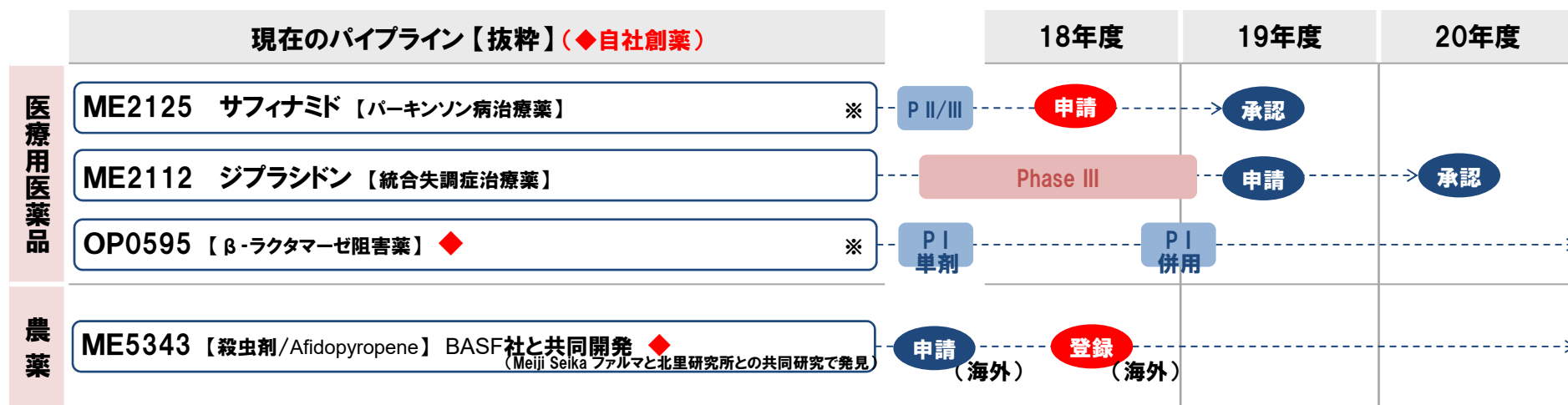
- ・現地ブランド「アニマルクラッカー」などの価格見直しに取り組み中
- ・「ハローパンダ」など明治ブランドのチョコスナックは好調。販促も強化し、さらなる成長を目指す



9月～
KMバイオロジクス製造の一部
ワクチンの販売を開始

*（一部を除き）ワクチンは薬価未記載のため、薬価改定の対象外

- **アレルギー性疾患治療薬「ビラノア」**
 - ・ 前年・計画ともに上回る成長
 - ・ 「患者の声」「医師の使用感評価」などで高い評価
 - ・ 情報提供を強化し、さらなるシェアアップへ
- **統合失調症治療薬「シクレスト」**
 - ・ 薬剤への評価が高まり、使用実績が増えたことで着実に成長
 - ・ 今後の統合失調症領域の拡大に対応した営業体制を整備し、計画キャッチアップを目指す
- **抗うつ薬「リフレックス」**
 - ・ 上期は好調に推移するも、12月以降の他社ジェネリック発売により下期は不透明感残る
 - ・ 自社ジェネリックの発売で数量シェア確保を目指す
- **ジェネリック医薬品**
 - ・ 薬価改定の影響は甚大だが、注射用抗菌剤を中心に金額ベースでの成長続く

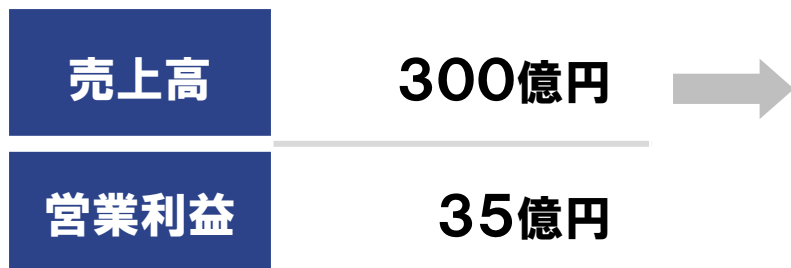


※導出した品目。導出先や対象地域などの詳細については、当社ホームページをご参照ください

- 10月3日 新規農業用殺虫剤 アフィドピロペンの米国農薬登録取得 (BASF社)
- 10月23日 OP0595の国内開発についてAMED CiCLE事業*に採択 → 「抗菌薬の適正使用」をコンセプトに、単味製剤として開発
- 10月23日 サフィナミドの日本における製造販売承認申請
- ジブラシドンは統合失調症治療薬の次のラインアップとして開発進行中

* AMED: 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
CiCLE事業: 医療研究開発革新基盤創成事業

【KMバイオロジクス(単体) 9か月業績見通し】

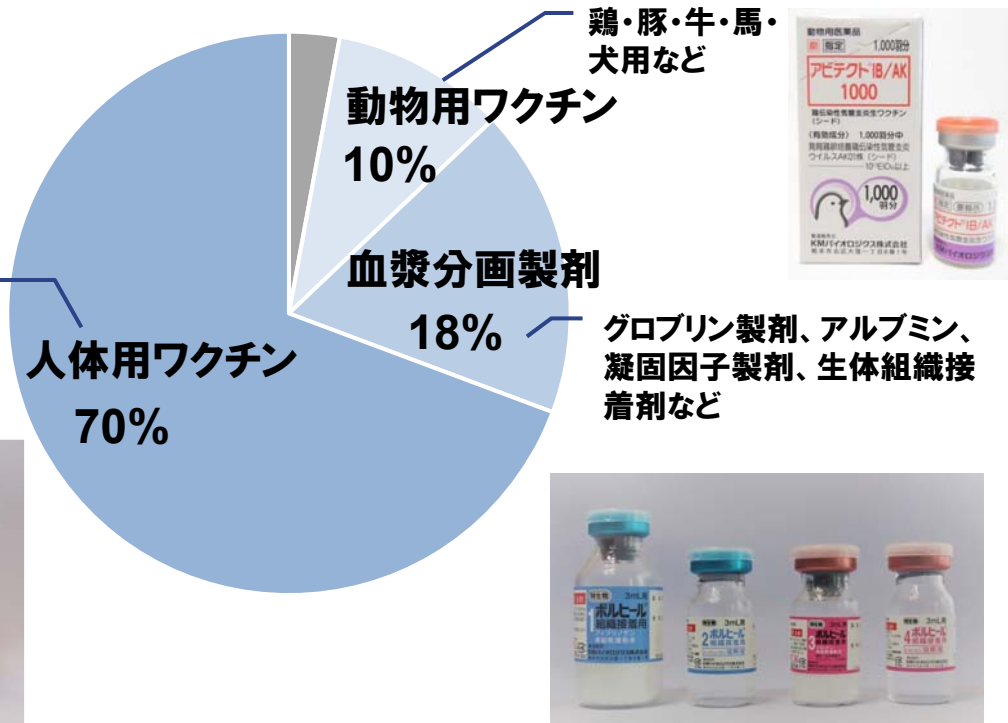


(注)連結時は上記に加え、セグメント内消去が発生



(本社/熊本事業所)

内訳(イメージ)



- 当社のみが生産する製品は20製品。5,700万人分の新型インフルエンザワクチンの生産体制を持つなど、大きな供給責任を担う
- 国内市場での早期の信頼回復と開発促進に取り組む

ガバナンス・コンプライアンス

明治グループのガバナンス体制に基づく指導・管理・監督機能の強化により、経営の透明性を確保

- 内部業務監査体制の整備
- 縦割り体制の改善、組織内外からの監督機能を働かせるための組織改編
- レポートライン（報告・共有・マネジメント体制）の強化
- 内部通報制度の強化、コンプライアンス教育などを通じた企業風土の改善

安定供給・品質保証

- 信頼性保証体制の強化と組織管理体制の改善
- 明治グループから専門性の高い人材が出向し、製造管理、品質管理、品質保証体制を強化
- 医薬品品質システムの再構築

➡ 「信頼回復プロジェクト（PO:社長）」を立ち上げ、取り組みの進捗管理と社内外への適切な情報開示を推進

参考資料：財務データ

2018年度 上期連結経営成績



(億円)	18年度 上期実績	前年同期比	主な内容
売上高	6,119	+0.1% +4	— (詳細はP4-6参照)
営業利益	438	Δ2.9% Δ12	— (詳細はP4-6参照)
営業外収益	14	Δ23.4% Δ4	<ul style="list-style-type: none"> 持分法による投資損益: 3億円の減益効果 (前期)持分法による投資利益(3) (今期)持分法による投資損失(0)
営業外費用	14	+52.7% +5	<ul style="list-style-type: none"> 為替差損益: 7億円の減益効果 (前期)為替差益(1) (今期)為替差損(5)
経常利益	438	Δ4.9% Δ22	—
特別利益	133	+293.3% +99	<ul style="list-style-type: none"> 負ののれん発生益(+65) 固定資産売却益(+37)
特別損失	41	+54.3% +14	<ul style="list-style-type: none"> 災害による損失(+10) 減損損失(+8): 旧研究所関連 固定資産廃棄損(Δ9)
税金等調整前純利益	531	+13.4% +62	—
法人税等	144	Δ2.6% Δ3	—
非支配株主に 帰属する純利益	3	Δ44.0% Δ2	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	383	+21.9% +68	—

2018年度 上期連結営業利益 増減分析



(億円)	連結	食品	医薬品	他
17年度上期	451	409	43	△1
売上増減	△5	△28	+23	—
薬価改定	△60	—	△60	—
原価の変動	+53 ^(*1)	+15	+38	—
経費等の増減	+15 ^(*2)	+10	+5	—
その他(子会社損益含む)	△16	△16	+2	△2
18年度上期	438	390	51	△2

*1: 主な内訳 … 【食品】原材料コスト+9、その他+5

【医薬品】原価低減及び生産体制の見直しに伴う在庫評価替による差異

*2: 主な内訳 … 【食品】拡売費・宣伝費増△9、物流費増△4、その他+23

【医薬品】研究開発費減(期ずれ)+7、その他△2

2018年度 上期連結財政状態



(億円)	18年9月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	4,158	+8.6% +328	・受取手形・売掛金 (+75) ・商品及び製品 (+190)、原材料及び貯蔵品 (+75): KMバイオロジクスの新規連結
固定資産	5,880	+8.4% +457	・建物及び構築物 (+182)、機械装置及び運搬具 (+130): 新規連結など ・投資有価証券の増加 (+75): 時価評価増 ・建設仮勘定 (+63)
資産合計	10,039	+8.5% +786	—
流動負債	2,934	△0.3% △9	・コマーシャルペーパー (+110) ・短期借入金 (△84)
固定負債	1,575	+16.2% +219	・長期借入金 (+151)
負債合計	4,510	+4.9% +209	—
株主資本	4,934	+6.0% +278	・利益剰余金の増加 (+275)
その他の包括利益 累計額	270	+24.5% +53	・その他有価証券評価差額金 (+57)
非支配株主持分	323	+311.8% +245	—
純資産合計	5,528	+11.6% +576	—
有利子負債	1,367	+14.8% +176	・長期借入金 (+151) ・コマーシャルペーパー (+110) ・短期借入金 (△84)
自己資本比率	51.8%	△0.9pt	—

2018年度 上期連結キャッシュフロー、株主還元



(億円)	18年度 上期実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	383	△3	—
投資キャッシュフロー	△602	△275	<ul style="list-style-type: none"> ・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 (△338) ・有形及び無形固定資産の売却による収入 (+57): 工場跡地、オフィスビルなど
フリーキャッシュフロー	△218	△279	—
1株あたり配当金	65.0円	+7.5円	

2018年度 連結計画



(億円)

	上期実績	前年同期比	下期計画 (11/7時点)		通期計画 (11/7時点)		
				前年同期比		前年同期比	
連結	売上高	6,119	+0.1% +4	6,535	+3.8% +241	12,655	+2.0% +246
	営業利益	438	Δ2.9% Δ12	571	+15.4% +76	1,010	+6.7% +63
	経常利益	438	Δ4.9% Δ22	571	+14.8% +73	1,010	+5.3% +51
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	383	+21.9% +68	326	+9.5% +28	710	+15.9% +97
食品	売上高	5,248	Δ1.8% Δ94	5,422	+0.5% +29	10,671	Δ0.6% Δ65
	営業利益	390	Δ4.6% Δ19	491	+13.5% +58	881	+4.7% +39
医薬品	売上高	876	+12.6% +98	1,123	+23.9% +217	2,000	+18.7% +315
	営業利益	51	+17.5% +7	83	+25.7% +17	135	+22.4% +24

2018年度 食品セグメント内 事業別計画



(億円)		上期実績		下期計画 (11/7時点)		通期計画 (11/7時点)	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
発酵 デリー	売上高	1,655	Δ3.0% Δ50	1,669	Δ0.6% Δ9	3,324	Δ1.8% Δ60
	営業利益	224	Δ9.0% Δ22	265	Δ3.4% Δ9	489	Δ6.0% Δ31
加工食品	売上高	914	+2.8% +24	850	Δ0.3% Δ2	1,764	+1.3% +22
	営業利益	43	+9.1% +3	39	+16.7% +5	83	+12.6% +9
菓子	売上高	504	Δ15.1% Δ89	741	Δ2.7% Δ20	1,245	Δ8.2% Δ110
	営業利益	62	Δ13.7% Δ9	153	+23.5% +29	216	+9.8% +19
栄養	売上高	445	+2.4% +10	411	+1.4% +5	857	+1.9% +15
	営業利益	72	+0.3% +0	60	+17.1% +8	133	+7.4% +9

2018年度 食品セグメント内 事業別計画



(億円)		上期実績	前年同期比	下期計画 (11/7時点)	前年同期比	通期計画 (11/7時点)	前年同期比
		海外	売上高	217	+5.8% +11	273	+19.2% +44
営業利益	5		+48.3% +1	5	+41.4% +1	10	+44.8% +3
国内 その他 子会社	売上高	1,511	Δ0.1% Δ1	1,477	+0.9% +12	2,989	+0.4% +11
	営業利益	23	Δ10.5% Δ2	18	+7.5% +1	41	Δ3.5% Δ1
全社 共通費	売上高	—	—	—	—	—	—
	営業利益	Δ41	—	Δ51	—	Δ93	—

2018年度 連結営業利益 増減分析

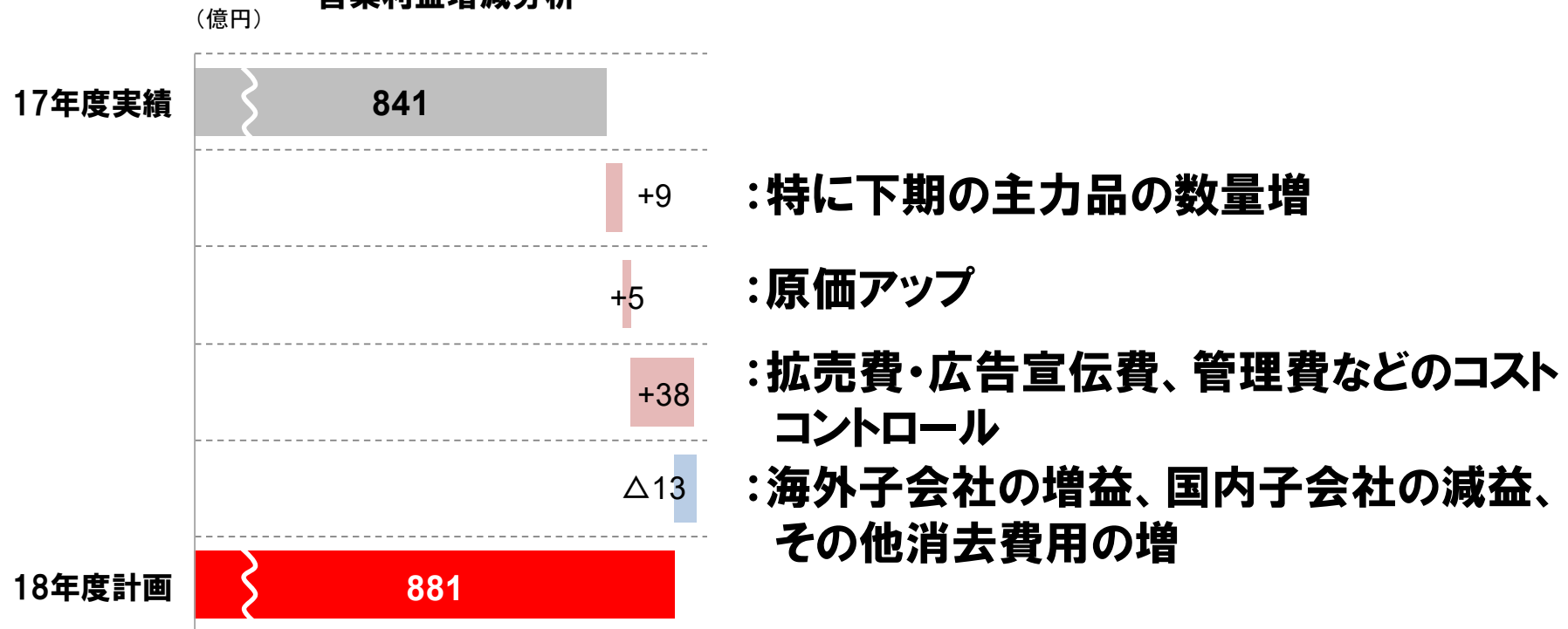


(億円)	連結	食品	医薬品	他
17年度実績	946	841	110	△5
売上増減	+49	+9	+40	—
薬価改定の影響	△125	—	△125	—
原価の変動	+95	+5	+90	—
経費等の増減	+36 (*1)	+38	△2	—
その他(子会社損益含む)	+9	△13	+22	△0
18年度計画	1,010	881	135	△6

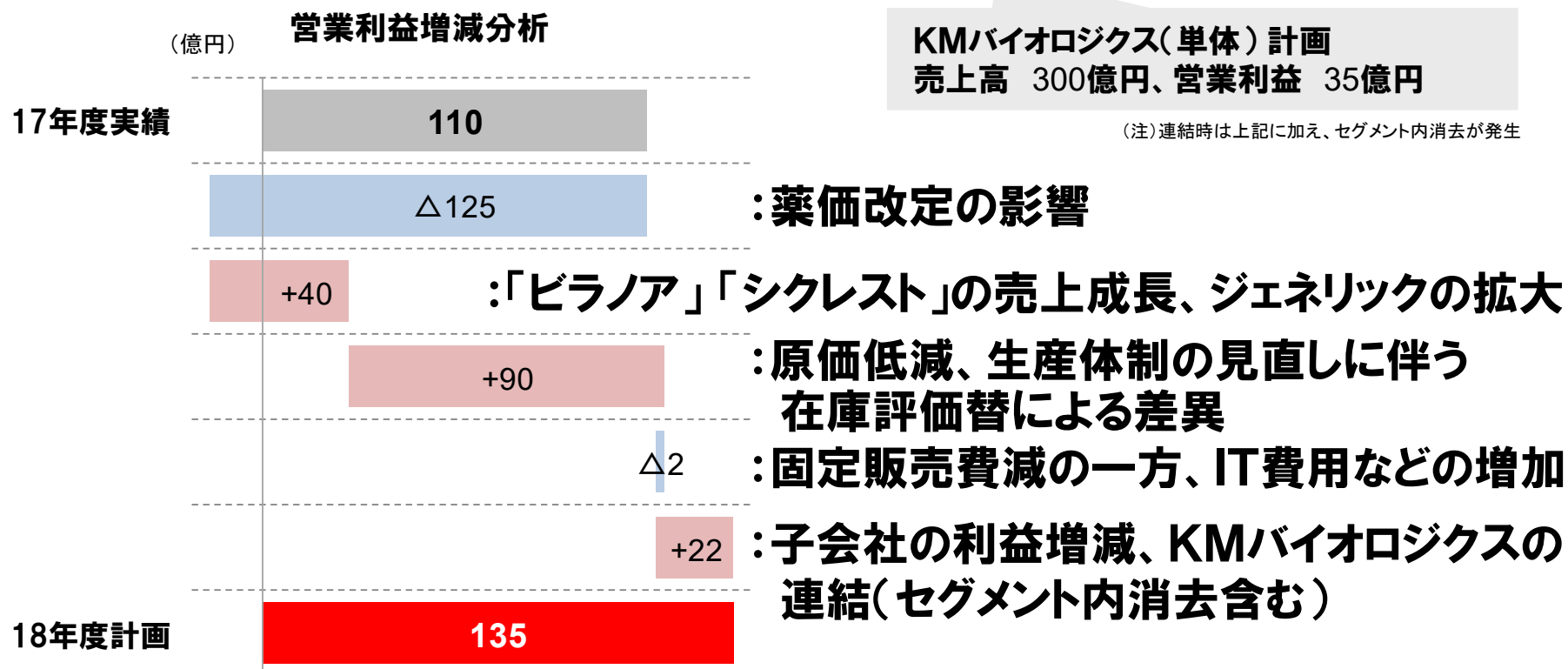
*1: 主な内訳 … 【食品】 拡売費・宣伝費増△9、物流費増△11、その他+58
 【医薬品】 研究開発費減+5、その他△7

(億円)	17年度 実績	18年度 計画 (8/7時点)	18年度 計画 (11/7時点)	前年同期比
売上高	10,736	10,900	10,671	△0.6% △65
営業利益	841	900	881	+4.7% +39

営業利益増減分析



(億円)	17年度実績	18年度計画 (8/7時点)	18年度計画 (11/7時点)	前年同期比
売上高	1,684	1,716	2,000	+18.7% +315
営業利益	110	100	135	+22.4% +24



2018年度通期 キャッシュフロー、株主還元

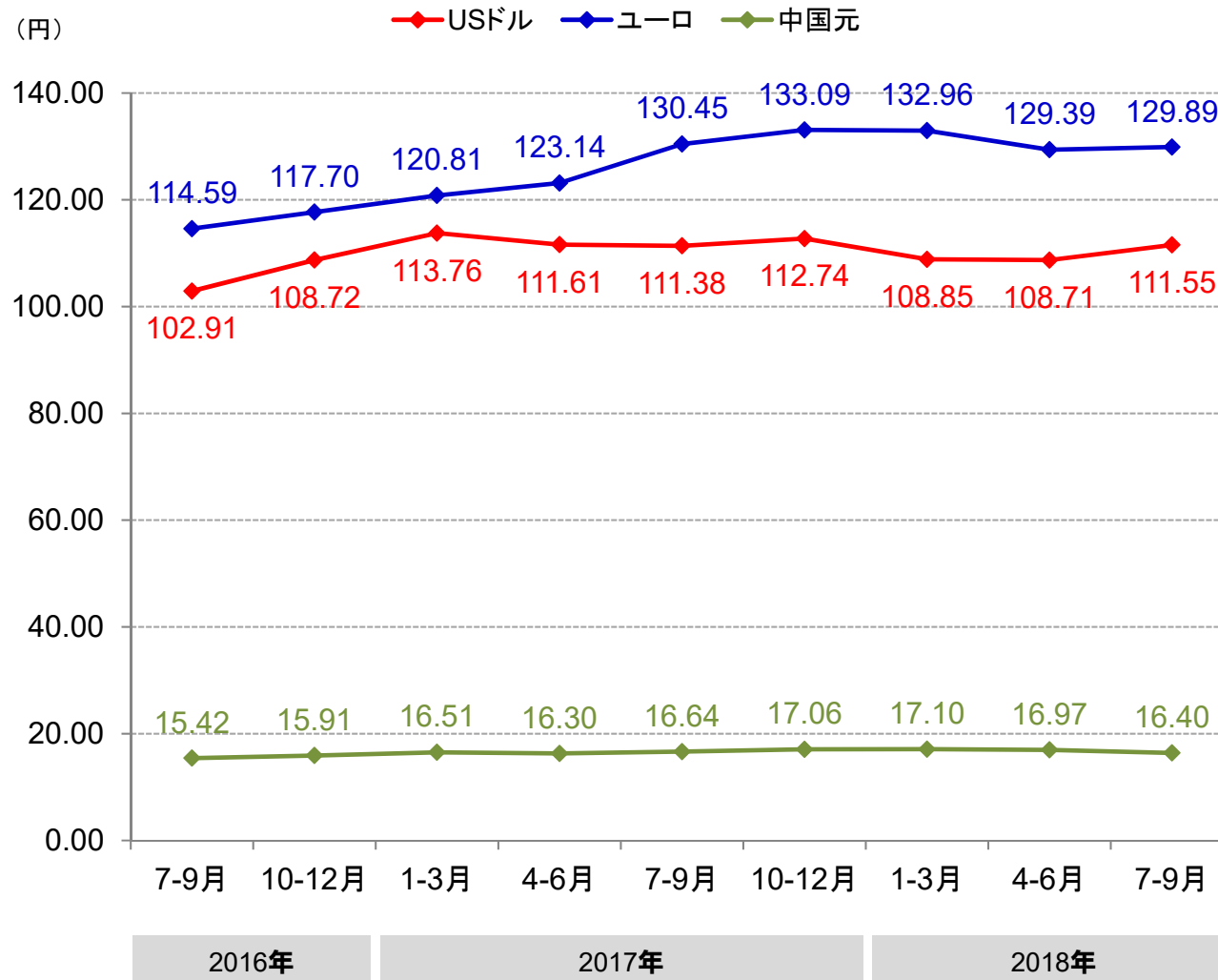


(億円)	18年度 計画	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	1,134	+46	・主にKMバイオロジクスの新規連結による影響
投資キャッシュフロー	△1,097	△453	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資額の増加 【設備投資額】 食品 681億円(前年同期比 +42) 医薬品 111億円(前年同期比 +32) ・連結の範囲を伴う子会社株式の取得による支出 (KMバイオロジクス)
フリーキャッシュフロー	37	△406	
1株あたり配当金	130円	— (2Q) 65円 (期末) 65円	
配当性向	26.6%	△4.2pt	—
ROE	13.8%	+0.7pt	—

主要通貨と当社平均レート



主要通貨と当社平均レートの推移



18年度計画の為替前提

USD	食品	115円
	薬品	110円
ユーロ	食品	135円
	薬品	130円
中国元	食品	18円
	薬品	16円

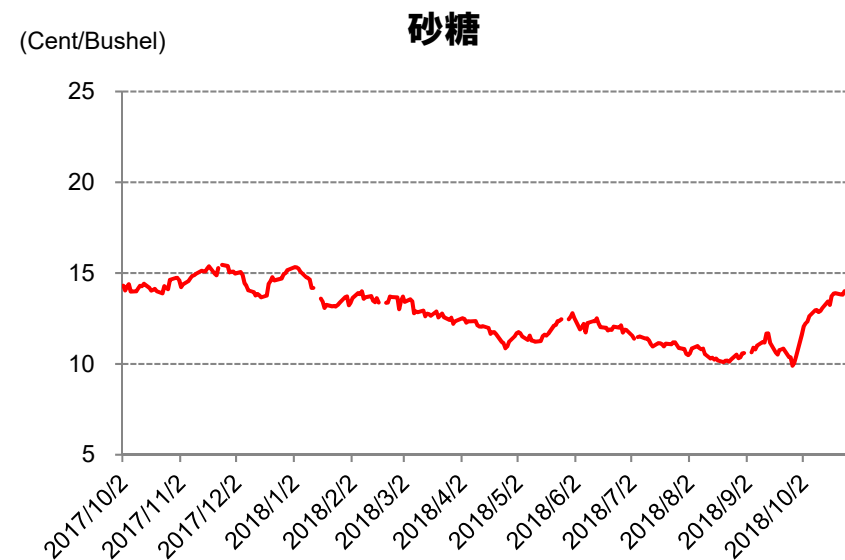
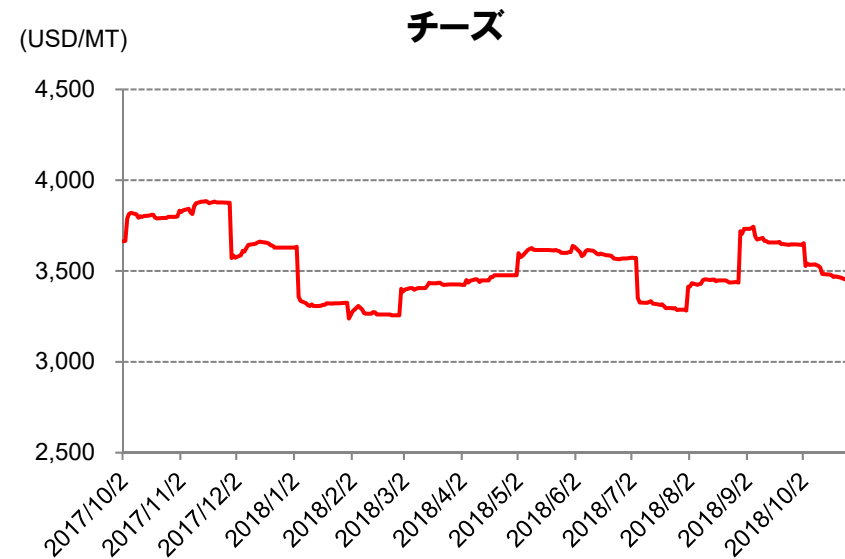
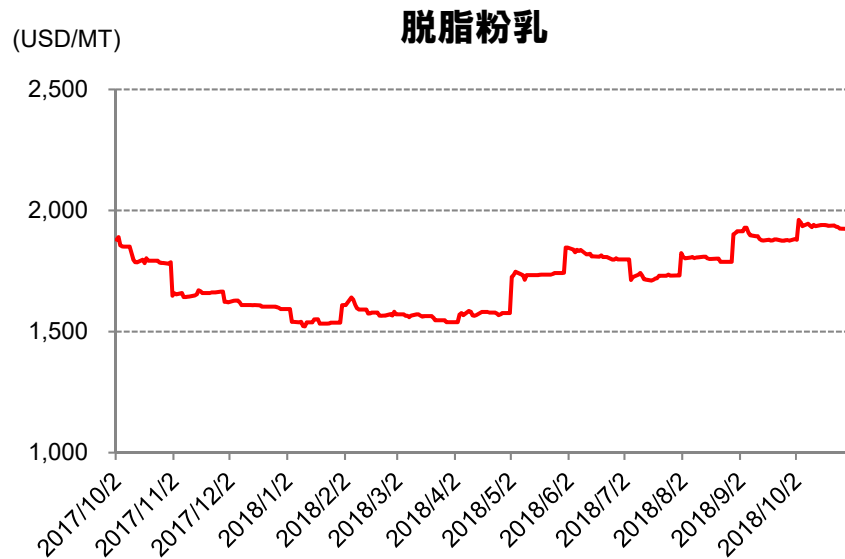
2020中計の為替前提

USD	食品	115円
	薬品	110円
ユーロ	食品	125円
	薬品	120円
中国元	食品・薬品	16円



参考資料：トピックス

主要輸入原料相場の動向



開発パイプライン



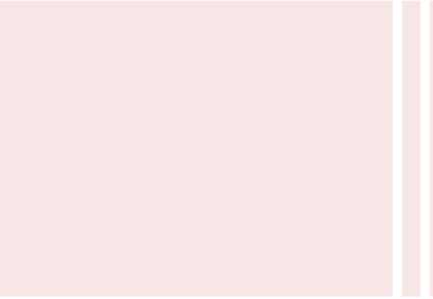
現在のパイプライン (◆自社創薬)		18年度	19年度	20年度
感染症	ME1111 【爪真菌症治療薬】 ◆	Phase II		
	ME1100 アルベカシン 【院内感染肺炎/人工呼吸器関連肺炎治療薬】 ◆	P Ib (海外)		
	OP0595 【β-ラクタマーゼ阻害薬】 ◆ ※	P I 単剤	P I 併用	
中枢神経系	ME2125 サフィナミド 【パーキンソン病治療薬】 ※	P II/III	申請	承認
	ME2112 ジプラシドン 【統合失調症治療薬】	Phase III		申請
	リフレックス適応拡大【線維筋痛症治療薬】	P II		
その他	SP-02L ダリナパルシン 【再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫治療薬】	Phase II		申請
	DMB-3111 【トラスツズマブ(ハーセプチン バイオ後続品)】 ※	導出 (P I 終了)		
人体用ワクチン	KD-370 【百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型による感染症の予防】 ◆	Phase III		申請
	KD-382 【デング熱の予防】 ◆	Phase I (海外)		
	KD-404 【インフルエンザの予防】 ◆	Phase I		
血漿分画製剤	KD6-71 【慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチーを含む)の筋力低下の改善用】	P III	申請	承認
	KD5-71 【視神経炎(ステロイド剤が効果不十分な場合に限り)】	P III	申請	承認
	KD-371 【顕微鏡的多発血管炎における神経障害の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限り)】	Phase III		

(注) ※印は導出した品目。導出先や対象地域などの詳細については、当社ホームページをご参照ください

開発パイプライン



現在のパイプライン (◆自社創薬)		18年度	19年度	20年度	
農薬	ME5382 【殺虫剤】 ◆	申請	申請 (海外)	登録	
	ME5343 【殺虫剤/Afidopyropene】 BASF社と共同開発 ◆ <small>(Meiji Seika ファルマと北里研究所との共同研究で発見)</small>	申請 (海外)	登録 (海外)		
	ANM-138 【殺虫剤/Flometoquin】 日本化薬と共同開発 ◆	登録			
	ME5223 【殺菌剤/Fenpicoxamid】 Dow AgroSciences社と共同開発 ◆	申請 (海外)	登録 (海外)		
動物薬	ME4129適応拡大 【抗菌性注射剤】	申請		承認	
	ME4136 【抗菌性注射剤】	申請	承認		
	ME4137 【抗菌性注射剤】		申請		承認
	ME4624 【ワクチン】	申請		承認	
	KD-390 【鶏用ワクチン】 ◆	申請	承認		
	KD-386 【豚用ワクチン】 ◆	申請		承認	
	KD-387 【豚用ワクチン】 ◆	申請		承認	



meiji

